

令和 2 年度 F D 実施報告書

学部・学科	栄養科学部・栄養科学科
F D 取り組みへの理念・目標 平成 30～令和 2 年度の第 7 次中期総合計画の教育計画に基づき、栄養科学部栄養科学科教員の教育と研究における質的向上を目指して、FD 活動を推進する。すなわち、①次世代管理栄養士育成のためのカリキュラム改革（重点取組項目）、②管理栄養士国家試験や教員採用試験の高い合格率維持のための計画策定と着実な実施（重点取組項目）、③グローバル人材育成に寄与する長期留学制度の導入と環境整備、④西日本での栄養科学の研究拠点化を目指した研究活動の推進（重点取組項目）である。	
回数、期間、実施日等	実施事項・内容、実施組織、評価項目等
4 月 23 日 (第 1 回)	安武准教授（FD センター委員）より、FD に関する相互理解を深めるため、次の 2 点について資料が提示され研修がなされた。＜WEB 研修＞ 1) 平成 30～令和 2 年度の第 7 次中期総合計画の教育計画、2020 年度 FD 実施計画 2) FD 活動（公開授業、教育ワークショップ、授業アンケート、学科内 FD の推進）と FD に関連する語句（FD、アセスメントポリシー、アクティブラーニング、ルーブリック、PBL など）の意味や活用法
5 月 1 日 (第 2 回)	三成国家試験対策委員長より、管理栄養士国家試験の高い合格率を維持するために、With コロナにおける学科の全教員がサポートする体制等について方針が出され、それに伴う事項の情報共有がなされた。国家試験対策委員（4 年次指導主任）から、学生に自宅で取り組める課題が出されていることについて情報が共有され、卒論担当の教員が主体的に対策に関わることが確認された。管理栄養士の資格を生かした職場への就職活動に挑戦するよう促すことで、国家試験合格のための動機付けを行うことも強調された。＜WEB 研修＞
7 月 30 日 (第 3 回)	前学期 WEB 授業に関する学生アンケートの結果に基づき、安武准教授（FD センター委員）、徳井教授（栄養科学研究科 FD センター委員）、学科内 FD 推進委員（大和教授、萩尾准教授、太田准教授）により作成された後学期 WEB 授業学科方針（案）について議論がなされ、一部修正の上、承認された。全学科教員が、この方針に則り、後学期の WEB 授業を実施することについて確認がなされた。 安武准教授（FD センター委員）より、栄養科学部主催の教育ワークショップについて、準備の進捗に関する情報共有がなされた。＜対面研修_約 15 分+WEB 研修_意見交換および最終版の情報共有＞
9 月 7 日 (第 4 回)	オンデマンド型の教育ワークショップにおいて、「教育の質保証に貢献する WEB 授業について」をテーマに、熊本大学・鈴木克明教授の特別講演「学生が学び続ける遠隔授業のデザイン」のほか、全学科より WEB 授業に関する報告がなされた。後学期以降の WEB 授業の実施にあたり、様々な先行事例や工夫について新しい知見を得る

10月29日 (第5回)	ことができる重要な機会となった。＜約 2.5 時間＞ グローバル人材育成に寄与する長期留学制度の導入と環境整備を目的に、学生の留学報告会がフード・マネジメント学科と合同で開催された。学生の演者は、栄養科学科4年生1名（デラウェア大学、ペンシルベニア大学）、フード・マネジメント学科3年生2名（ハワイ大学）であった。各演者より留学での学びを交えた報告がなされ、資料とスライドに基づき説明がなされ質疑応答を行った。学生は、長期留学の経験を振り返り、何を学び、何を得たのかを改めて考える機会となった。また、教員は、学部 FD 活動の一環として、学生の発表を通して、今後のグローバル人材を育成するために、どのようなサポートが必要か考える機会となった。＜約 30 分間＞
3月11日 (第7回)	萩尾准教授より、アクティブラーニングの学修技法の一つとして、KJ 法を用いた課題解決の進め方が紹介された。KJ 法の由来の説明に続いて、KJ 法を進める際の基本的なルールが示された後、どのような進め方をしたらよいのかを資料に基づき説明された。また、どのような学修技法なのかがイメージしやすいよう、演習をする際に必要となる<u>具体物</u>(課題、付箋紙、4色マーカー、模造紙等)や<u>図解化の事例</u>も準備いただいた。講義や実習を実施するうえで、学習技法を学ぶ機会となった。＜約 30 分間＞

「教育システム改革 2014 (FD2014)」の進捗状況

項目	主な実施内容	進捗状況	補足説明
授業科目の組織的な管理	ループリックの導入	☐ 未着手 ☐ 検討中 ☒ 実施中 ☐ 実施済	一部の科目のレポート評価などに導入されている。ループリック評価の導入が可能な科目について引き続き検討する。
教員の教育力に対する評価の導入	授業アンケート結果の組織的な活用	☐ 未着手 ☒ 検討中 ☐ 実施中 ☐ 実施済	全学的には、学生の授業アンケート・ベストティーチャーの投票、公開授業のアンケートが実施されているが、その活用については検討中である。
教育方法の改善	アクティブラーニング(特に PBL)の推進 PBL：課題解決型授業	☐ 未着手 ☐ 検討中 ☒ 実施中 ☐ 実施済	実験・実習や一部の科目および卒業研究では、既に PBL の考え方が導入されている。導入が可能な科目について。引き続き検討する。

「FD2014」はサイボウズのファイル管理－「FD センター」にあります